

平成 29 年ヒラメ稚魚分布密度調査結果 (日本海) について

当研究所では日本海における天然ヒラメの稚魚分布密度調査を昭和55年から行っており、平成29年は6月28日、7月11日、8月5日、9月5日に桁網 (水工研Ⅱ型) を用いてつがる市沖8点で調査を行いました (図1)。ヒラメの分布密度は桁網の漁獲効率を0.28とすると0~352尾/1,000m<sup>2</sup>の範囲にありました (表1)。採捕したヒラメの全長組成は6月28日に水深5mで20~29mm、10mで20~39mm、7月5日に水深5mで30~49、10mで30~39mm、8月5日に水深5mで40~59mm、10mで50~59mm、9月5日に水深5mで60~69mm、10mで70~79mmが主体となっていました (図2)。水深別平均分布密度の最高値を着底指数とすると、平成29年は193であり、昭和55年以降の平均値147を上回る水準でした (図3)。今後の漁獲資源への加入が期待されます。

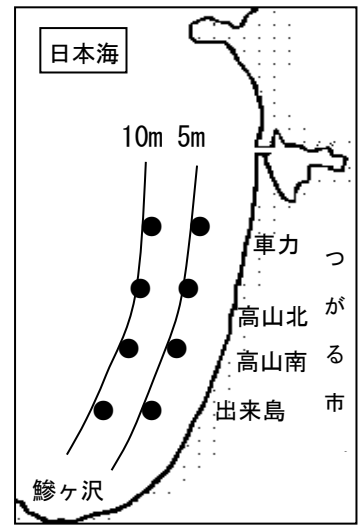


図 1 調査地点

表 1 ヒラメ稚魚分布密度

日本海	水深 5m				水深 10m				(尾/1,000m <sup>2</sup> )		
	調査月日/調査点	出来島	高山南	高山北	車力	出来島	高山南	高山北	車力	5m 平均	10m 平均
2017.6.28		32	39	79	41	9	8	9	9	49	9
2017.7.11		55	55	352	0	10	43	44	31	112	32
2017.8.5		147	169	272	179	24	62	69	25	193	44
2017.9.5		24	57	58	16	0	10	11	14	40	9

\* 桁網の漁獲効率を0.28として算出した。

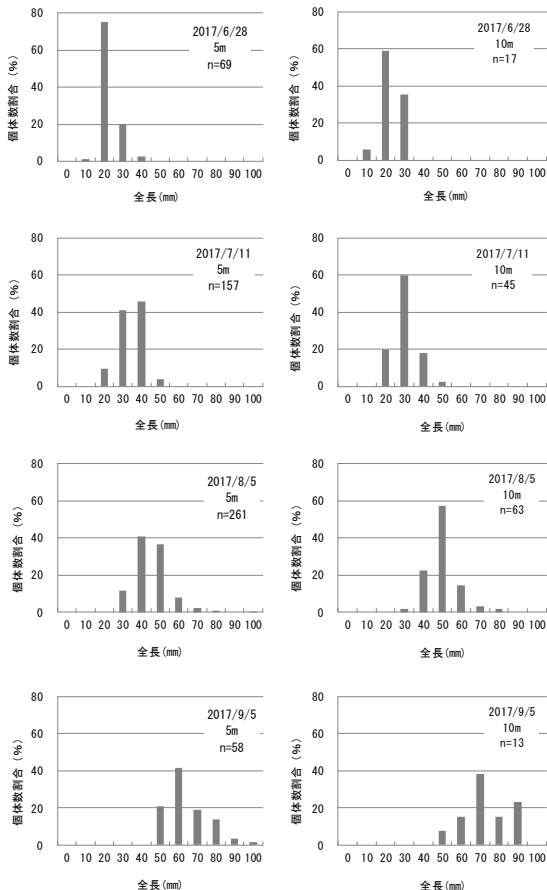


図 2 採集したヒラメ稚魚の全長組成

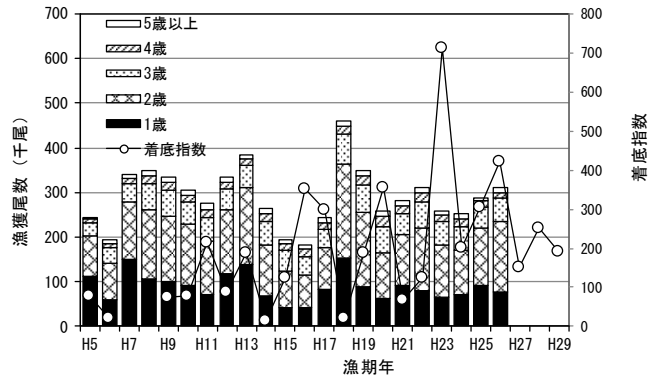


図 3 日本海のヒラメ着底指数と年齢別漁獲尾数の推移